

## 《妖精ヴィッリ》

会期／2021年12月22日(水)～2022年1月13日(木)  
(※休館日はwebでご確認ください)

連載／岸純信(オペラ研究家)

協力／渡辺真弓(オン★ステージ新聞編集長/舞踊評論家)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

現在、「週刊オン★ステージ新聞」(青林堂)にて連載中の「バレエとオペラ」関連企画として、常設展をシリーズ開催いたします。本展では、「薄井憲二バレエ・コレクション」から図版提供した記事と共に、実際の資料をご覧ください。第8弾は《妖精ヴィッリ》(2020年11月27日号「バレエとオペラ」第21回)より。どうぞお楽しみください。

### -----「バレエとオペラ」第21回 岸純信 -----

#### 「庶民派のジゼル」プッチーニ《妖精ヴィッリ》

本紙9月18日号に掲載された一枚のショットが、筆者に、オペラ史の重要ポイントをひとつ思い出させることになった。それは「イタリア・オペラでコリオグラフィを最も活用できる演目」。

「コンテンポラリーダンス版『瀕死の白鳥』と題する関典子さんの鋭いポージングから、筆者は「庶民派ジゼル」と呼ぶべきオペラを連想した。

プッチーニの処女作《妖精ヴィッリ》(初演:1884)は、題名からも連想されるとおり、アダンの優美な『ジゼル』と同種の筋立てである。ただし、《ヴィッリ》には貴族層が絡んでこず、南独の村人社会で話は完結。ヒロインのアンナは後半で亡霊と化し、悪女に惑わされて自分を捨てた男ロベルトを死の国に引きずり込むが、その行いを妖精たちが賛美するところでオペラの幕が下りるのだ。

《妖精ヴィッリ》は2幕立て。真ん中に間奏曲は2つ続けて入り、2番目の曲は〈魔女の饗宴〉と銘打たれている。ト書きには「鬼火に導かれた妖精たちが踊りまくる」とあるから、ダンサーを贅沢に雇える歌劇場なら、それはダイナミックな表現が出来るだろう。楽譜自体も「Opera-Ballo」と銘打つので(イタリアものでは非常に稀)、演出家が工夫すれば、どこでどれだけ、どんなふうにも踊っても良い一作になる。

先述の関さんが髪を振り乱す舞台写真は、筆者の脳内で《ヴィッリ》の烈しい音運びと深くリンクする一枚になった。

演奏時間70分という小品《妖精ヴィッリ》。録音は幾つも

あるが、ちょうどモデナの歌劇場が動画を無料公開中なので、まずはそちらをお勧めしてみたい。(中略)

中でも印象に強いのは、開幕すぐの若者の爽やかなダンス、開始後45分辺りの亡霊群の妖美な動き、大詰めで男を取り囲むヴィッリたちの禍々しさ。

見れば見るほど、モダンの振付をオペラで活用するならば、本作において他にないのではと思えてくる。乙に澄ますところなく、日常感覚に根差すドラマを好んだプッチーニならではの境地だろう。(後略)

### 出展資料

- ◆ AP-013 アンティークプリント/カルロッタ・グリジ/『ジゼル』/フランス/1841年
- ◆ PC-AC-04 葉書/コンスタンチン・セルゲイエフ/『ジゼル』/ロシア/1946年
- ◆ PC-AC-05 葉書/ガリーナ・ウラノワ/『ジゼル』/ロシア/1946年



### 参考映像

- ◆ 《妖精ヴィッリ》モデナ歌劇場(2020)全編  
Puccini LE VILLI - Italian subtitles - English Subtitles  
[https://youtu.be/wTbZAgko\\_ZI](https://youtu.be/wTbZAgko_ZI)
- ◆ 《妖精ヴィッリ》ベラルーシ国立ボリショイ・アカデミー劇場(2021)全編  
G. Puccini "Le villi" National Academic Bolshoi Theatre of Belarus  
<https://youtu.be/5JFT1-a-zi8>
- ◆ つながろうアート! 関典子  
《コンテンポラリーダンス》『瀕死の白鳥』  
ひょうごアーティスト動画配信事業  
<https://youtu.be/vzBhhjgGjsM>



(※ 作品名について、オペラは《 》、バレエは『 』で表記しております)



### 兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22  
tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212  
※ 禁無断転載・複製・引用